

関東地方の保全団体等におけるアンケート・聞き取り調査によるトウキョウサンショウウオの生息状況とアライグマ対策の実態

日獣大・野生動物 鈴木香陽

トウキョウサンショウウオ (*Hynobius tokyoensis*) は群馬県と茨城県を除く関東地方の 1 都 4 県に分断的に生息し、個体数は減少傾向にある。近年のアライグマ (*Procyon lotor*) の分布拡大に伴い、トウキョウサンショウウオへの影響が懸念されている。本研究では、トウキョウサンショウウオの生息域において、本種の産卵状況等の情報から各個体群の生息状況と減少要因の把握に努めるとともに、保全対策の実施状況、外来生物による被害状況を把握し、今後の効果的な保全活動と外来生物対策の検討に資することを目的とした。

東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県・栃木県を対象としたトウキョウサンショウウオの分布に関する文献調査の上、トウキョウサンショウウオの保全団体・個人に問い合わせ、生息確認地点を可能な限り選出した。当該地点の関係者へのアンケート調査、並びに必要な聞き取り調査と生息環境調査を行った。

アンケート・聞き取り調査では 14 地点分の回答を得た。トウキョウサンショウウオは 11 地点 (79%) で減少傾向がみられた。個体数の減少の要因として、産卵場所の環境変化が最も高い割合を示し、11 地点 (79%) であった。本種の生息状況とアライグマ被害の関連性の検討について、すべての地点でアライグマが産卵場所周辺に生息しており、これまでにアライグマ被害があった地点は 10 地点 (71%) で、最も多かったのは「成体の食痕あり」で 7 地点 (50%) において確認された。被害が確認された翌年以降に卵嚢数が激減または局所的絶滅をした産卵場所を含むのは 3 地点 (21%) であった。トウキョウサンショウウオの保全活動とそれに係る外来生物対策を実施しているのは 12 地点 (89%) であり、対策を開始して以降、被害の減少傾向がみられた地点は 6 地点 (60%) であった。卵嚢数が回復また安定している地点の対策状況を紹介する。

産卵場所の乾燥化や水質の悪化、捕食被害により、ほとんどの地点でトウキョウサンショウウオの個体数は減少傾向にあると示された。一方、産卵場所の整備や外来生物防除対策を行うことで卵嚢数が回復傾向を示した事例も確認された。捕食被害により卵嚢数が激減することから、環境変化による個体数の減少に加え、近年のアライグマの増加による捕食圧が減少に拍車をかけている可能性が示唆された。また、積極的な保全活動を実施している地点では卵嚢数の安定または増加する傾向がみられたため、産卵場所と森林環境の整備と同時にアライグマの防除対策が個体数に与える影響を引き続きモニタリングしていくことが望まれる。